

# 平成30年度全国学力・学習状況調査の調査結果のまとめ

香美町立村岡中学校

## 1 結果分析

(国語A)

- ・全体では、全国・県平均と同程度である。
- ・「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」にやや課題がある。
- ・文章の構成、情報の整理、漢字の読み、古典の文章に対する問題については、全国・県平均を上回っている。
- ・無回答は全国・県平均よりも少ない。

(国語B)

- ・平均は全国・県平均と同程度である。
- ・全体と部分との関係をとらえるなど、物事の関係性をとらえて「読むこと」や「書くこと」に活用することが課題である。
- ・無回答は全国・県平均よりも少ない。

(数学A)

- ・全体としては全国・県平均と同程度である。
- ・正答率については、高い生徒も多くいる反面、4割程度の生徒も若干見られる。問題によっては、無回答率が15.3%のものもあるが、昨年(34.9%)よりはかなり減っている。

(数学B)

- ・全体としては、全国・県の平均を上回っている。
- ・領域別では「数と式」がほぼ同程度となっている。「図形」は全国・県平均より6ポイント程度高く、昨年と同じような結果となった。「関数」では、3ポイント程度高くなった。「資料の活用」が、全国・県平均を下回っており課題がある。
- ・「数学的な見方や考え方」の結果がよく、昨年と同様の結果となった。また、出題形式では、「記述式」の設問に対して課題がある。

(理科)

- ・全国、県平均と同程度である。
- ・地震の基礎的な知識について(選択式・短答式)の正答率は、全3問とも全国・県平均以上だった。

(各教科共通)

- ・問題文をよく読み、正しく理解した上で解答する問題について課題がある。

(生徒質問紙)

- ・学校から与えられた課題は良くできているが、自主的な家庭学習、予習復習の意

識に課題がある。

- ・「自分にはよいところがある」、「よいところを先生に認めてもらっている」については少しずつ伸びてきている。
- ・「将来の夢を持っていますか」については、例年より10ポイント上がり、今年度全国、県平均に近づいた。
- ・地域関連の質問については全国、県平均より高い値を示している。
- ・授業での「話し合い活動」の項目については、本校の経年比較では着実に肯定的な回答が増加してきている。

## 2 課題等を踏まえた今後の取組の方向性や新たな方策等について

(国語)

- ・国語の授業に限らず、他の教科、道徳、学活などにおいて、班単位、学級単位で「話し合い活動」を意識的に取り入れ、言語活動による語彙の習得、話の進め方、他者の意見を理解し、議論する中で新しい考え方を生み出す力などの習得を図る。
- ・国語科や生徒会からの読書のすすめ、職員や生徒による本の紹介など、読書の啓蒙活動を強化する。
- ・掲示コーナーにタイムリーな新聞記事を掲示したり、短学活などで日直が新聞記事を紹介したりするなど、活字に触れる機会をつくる。

(数学)

- ・授業内で一度は「教え合う場面」を設定し、相互の理解度を深める。
- ・継続して取り組んでいる「三題帳(毎日の課題)」の内容を、個に応じて内容指定するなど、苦手克服を図る。

(理科)

- ・観察や実験を多く取り入れ、科学的な現象を視覚的に認識させ、理科に対するさらなる興味・関心の喚起を図る
- ・仮説、検証のある実験により、より深みのある学習をするための授業改善に取り組む。

(生徒質問紙)

- ・生徒に色々なことに挑戦させるための環境づくり(近年では、陸上大会、駅伝大会、マラソン大会、英検、漢検、理数甲子園、弁論大会などへの出場を積極的に進める)や、自信を持たせ、次への意欲につなげる指導の共通理解。
- ・キャリアノートを活用した、個々のキャリア形成への取組は一定の成果が得られた。教育活動全般にわたってキャリア形成の視点で見直し、生徒が将来の夢を意識し、努力できるようにする。
- ・家庭学習時間の確保について、村岡区小中一貫化教育の取組の一つである「家庭学習時間の基本時間」の周知、徹底をさらに強化し、小中一貫化教育学習指導部会で検証を行い、今後の取組に生かす。
- ・現在、朝読書に特化している時間の朝学習への変更や、水曜6校時授業の活用を視野に入れた、学習・授業時間の拡大。